

「高尾山を歩く」

先週末、高尾山に行った。京王の広告には、「ベストシーズンは、春夏秋冬です。高尾山」と書かれている。京王では、都心から約50分の京王沿線有数の大自然「高尾山」における春夏秋冬それぞれの魅力を紹介し、「いつもベストシーズン」と言っているのだ。確かにいつ行っても大自然に出会える。いつ行っても人が多い。ただ、あえて四季の中から選べば「秋」がベストシーズンだろう。秋の紅葉は素晴らしい。その分、最も人で混雑する時期でもある。すれ違い出来ないような狭い山道の場所では渋滞が発生するほどだ。それを知っていたので、この日はいつもより1時間早く家を出た。府中あたりから、京王線の車内は高尾山に行く人たちが目立ってくる。ミシュランガイドに載っているだけあって、外国の方も多く見かける。

家族連れやグループが多い高尾山だが、私のように一人で登っている人もいる。清滝の登山口には9時45分。そこから稲荷山コースを歩く。稲荷山コースはマイナーな道で、メジャーな登り方は、ケーブルカーやリフトを使い、薬王院を經由して山頂に向かう。途中には茶屋もあるが、とにかく人だらけ。高尾山の山頂はかなりの人でにぎわっている。何が人々を高尾山にひきつけるのか。都心から気楽に登れること、最も近く登りやすい山。それでいて、登ったという気持ちにさせてくれる適度な山道。私は裏高尾を含めると、今年だけでも3回目になる。

高尾山を超えると、人はかなり少なくなる。高尾山頂から城山、景信山へ。そして、陣場山につづく尾根道を通る。途中に鮮やかに紅葉したもみじなどが見られる。富士山が見えると最高。この日は晴れてはいたが、富士山には雲がかかり、見えなかった。落ち葉のある道をひたすら登る。登りのきついところでは、下を向いて次にどこに足を置くかだけを考えて登る。どこが楽しくて何度も行くのか。新鮮な空気の補給、それとも日頃のことを忘れられる時間を求めているのか。途中の明王峠で相模湖側に下山。相模湖の駅に着いたのは2時半を過ぎていた。5時間ほどの行程。駅に着くと、また登りたい気持ちになっているのが不思議だ。

11月11日 校長 鈴木 幸雄

◆問題 1、2、4、8、16、32…のように、前の数を2倍していきます。このとき15番目までの和を求めなさい。